

公益財団法人 にいがた文化の記憶館
2020年度（令和2年度）事業報告
令和2年4月1日～令和3年3月31日まで

1. 概況

1. 展示事業

(1) 利用状況

2020年度（令和2年度）は3本の企画展示「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」、「江戸のリアリズム 森蘭齋」、「没後70年記念 相馬御風のうたのこころ」を開催し、2,145名（うち有料1,226名）の来館者を迎えました。この3本の企画展示および後述するネットワーク協議会事業は、（公財）新潟県文化振興財団から受託した「郷土の文化人顕彰事業」です。

開館日は247日間。休館日は月曜日（祝休日を除く）、展示替え期間、年末年始、そして全国緊急事態宣言下での臨時休館期間、2021年1月の大雪に伴う臨時休館を含む118日間でした。

(2) 常設展示事業

2020（令和2）年11月に文化功労者に選ばれた加藤澤男氏（五泉市出身、元オリンピック体操選手）のパネルを作成して、追加展示しました。

(3) 企画展示事業

3本の企画展示「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」、「江戸のリアリズム 森蘭齋」、「没後70年記念 相馬御風のうたのこころ」に加えて、2019（令和元）年度の併催展示「吉沢久子と古谷綱武展」（会期：2020年1月21日から3月15日まで）の関連講演会を2020年夏に延期したため、本展示の会期を8月2日まで延ばしました。また、「江戸のリアリズム 森蘭齋」の併催として新潟日報社所蔵の坂口安吾直筆手紙を館内の一部で展示しました。

①「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」

併催「吉沢久子と古谷綱武」（令和元年度企画展示）

2020（令和2）年4月3日（金）～8月2日（日） 87日間

入館者数 712名（うち有料289名）

※臨時休館（4月21日～5月10日）にともない、7月5日まで84日間の会期を、8月2日まで87日間に変更。

②「江戸のリアリズム 森蘭齋」

2020（令和2）年8月23日（土）～11月23日（月・祝） 81日間

入館者数 996名（うち有料660名）

※企画展示「佐渡を訪れた文化人」の会期延期にともない、7月23日から11月3日まで89日間の会期を、8月23日から11月23日まで81日間に変更。

併催「坂口安吾と新潟日報」

2020（令和2）年10月6日（火）～11月23日（月・祝） 43日間

※企画展示「佐渡を訪れた文化人」の会期延期にともない、11月3日まで25日間の会期を、11月23日まで43日間に変更。

③「没後 70 年 相馬御風のうたのころ」

2020（令和 2）年 12 月 12 日（土）～ 2021（令和 3）年 3 月 21 日（日） 79 日間

入館者数 422 名（うち有料 277 名）

※企画展示「佐渡を訪れた文化人」の会期延期にともない、11 月 21 日から 3 年 2 月 28 日まで 80 日間の会期を、12 月 12 日から 3 年 3 月 21 日まで 80 日間に変更。

※ただし、2021 年 1 月 7 日から 1 月 11 日までの大雪により、1 月 9 日を臨時休館とした。

これら企画展示で 29 名の文化人（うち 15 名は佐渡を訪れた県外の文化人）を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

2. ネットワーク協議会事業

2020（令和 2）年度事業計画案では 6 月 25 日に第 5 回ネットワーク協議会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大にともない開催予定日を延期しましたが、11 月に入って感染者数が増加したため、当該年度の開催を取り止めました。協議会開催に代わり、「新潟県文化祭 2020 新潟ステージチャンネル」（YouTube にて配信）に応募した館 PR 動画を活用して、県内顕彰館との関係強化を図ることとしました。

2020 年度に開催した企画展示「江戸のリアリズム 森蘭齋」（妙高市教育委員会）、「没後 70 年記念 相馬御風のうたのころ」（糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》）で出張展示支援を行いました。

2021 年 3 月に館報である「にいがた文化 第 6 号」を刊行し、ネットワーク協議会参加館や参加団体、県内文化施設等に配布しました。

3. 教育普及事業

企画展示関連事業として、担当学芸員による解説会を当初全 9 回予定しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 4 月及び 5 月を中止しました。企画展示の会期変更にともない、8 月を取り止めて全 6 回の解説会を開催しました。外部講師による講演会は、6 月に予定していた山本修巳氏講演会（「佐渡を訪れた文化人展」）と 7 月に延期した阿部絢子氏講演会（2019〔令和元〕年度事業「吉沢久子と古谷綱武展」）を取り止めました。開催できたのは 10 月横山秀樹氏講演会（「森蘭齋展」）だけでした。

イベント開催時の人数制限があるなかでの参加者総数は 63 名（前年度 551 名、前年比 11%）。内訳は作品解説会が 24 名（前年度 121 名、前年比 19%）、外部講師による講演会は 39 名（前年度 430 名、前年比 9%）でした。小中学校などによる団体観覧（総合学習含む）は 7 校・団体のべ 146 名（前年度 30 校、724 名、前年比 23 校減、対前年度比 20%）の来館がありました。

館外活動では、神林館長の著書『にいがた文化の記憶』の転載（新潟経済社会リサーチセンター「センター月報」に年 6 本）、学芸員によるフリーペーパーへの寄稿（年 6 本）の執筆活動がありました。講座では、神林館長から引き継ぐ形で武藤事務局長が新潟青陵大学の前期講義「地域文化論」（全 15 回）の講師を務め、新型コロナウイルス感染拡大のため遠隔授業を行いました。講演会は学芸員による東映アニメ映画上映会での解説が 2 回、のべ 81 名（前年度 568 名、前年比 14%）の参加がありました。

4. 調査及び研究・研修事業

文化人データベース構築作業を進めました。また、当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加して、顕彰施設や団体と交流しました。

5. 収集・保存、資料貸出

県出身またはゆかりの文化人に関するの3件（色紙、掛軸、原稿）の資料寄贈受入がありました。

6. 広報

平成27年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NSTの3団体から助成または共催をいただき、企画展示の規模に合わせて広報しました。緊急事態宣言による臨時休館など計画外の動きが多かったため、当館ウェブサイトの「にいがた文化ネットワーク協議会」ページを県内顕彰館や団体の開館およびイベント情報を取りまとめたページに変えました。またFacebookで開館準備の様子を伝えたり、来館出来ない状況でも郷土の偉人に親しんでもらえるよう紹介文化人の誕生日で紹介するシリーズを開始するなど、SNSでの発信に力を入れました。

2. 事業別報告

1. 展示事業

(1) 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
247日／365日間	118日／365日間	2,145名	1,226名	63名 (担当学芸員による解説会 および企画展示関連事業)

※2019（平成31・令和元）年度実績：開館日241日間 入館者総数4,179名 普及事業参加者総数551名

(2) 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
1	① 受賞者「諸橋轍次」、「ドナルド・キーン」*1 ② 医学「国産ビール醸造の父 伊藤 生田秀」*1 ③ 新潟の女性「吉屋信子と佐渡」*1 ④ 美術「実業家・茶人・美術コレクター 益田孝」*1 ⑤ 文学「青野季吉とプロレタリア芸術運動」*1	4/2(火)～ 8/2(日)	87	*1. 企画展示「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」の関連展示
2	①-1 受賞者「野坂昭如と戦争」 ①-2 受賞者「坂口安吾の直筆手紙」 ② 医学：『蘭齋画譜後篇』*1 ③ 新潟の女性：『蘭齋画譜蘭部』*1 ④ 美術：『蘭齋画譜竹部』*1 ⑤ 文学：『蘭齋画譜竹部』*1	8/23(土)～ 11/23(月・祝)	81	*1. 企画展示「江戸のリアリズム 森蘭齋」の関連展示
3	① 受賞者「相馬御風と小川未明・堀口大樹」*1 ② 医学「日本の文化をになった新潟人8人生没年グラフ」 ③ 新潟の女性「日本の文化をになった新潟人8人生没年グラフ」	12/12(土)～ 3/3/21(日)	79	*1. 企画展示「没後70年 相馬御風のうたのこころ」の関連展示

	④ 美術「日本の文化をになった新潟人 8 人生没年グラフ」 ⑤ 文学「相馬御風と宮終二」*1			
通年	文化勲章 (10 名)	4/3(金)～ 3/3/21(日)	247	文化功労者 1 名 (加藤澤男氏) の紹介パネルを追加
	文化功労者 (16 名)			
	人間国宝 (5 名)			

(3) 企画展示

①「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」

会 期	2020 (令和 2) 年 4 月 3 日 (金)～ 8 月 2 日 (日) 87 日間 ※ 臨時休館 (4 月 21 日～5 月 10 日) にともない、7 月 5 日まで 84 日間の会期を、8 月 2 日まで 87 日間に変更。
主 催	にいがた文化の記憶館、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ
後 援	新潟県
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
協 力	故 吉沢久子氏
展 示 協 力	山本修巳氏 (山本家第 12 代当主、新潟県文化財保護連盟理事、前佐渡市文化財保護審議会会長、地域誌『佐渡郷土文化』主宰、佐渡良寛会会長、佐渡俳句協会会長)
趣 旨	武家政権から天皇親政になった明治時代に、真野村 (現佐渡市真野) の順徳天皇火葬塚 (真野御陵) が脚光を浴び、参拝のために佐渡を訪れる人が多くなりました。渡島文化人の多くは真野御陵の管理保善に重要な任を担う山本家の丁寧な案内を受け、短歌や俳句を作り、山本家にそれを書き残しました。佐渡の風土や人情を愛した文化人の多くは佐渡を複数回訪れています。本展では、山本家所蔵の膨大な資料の中から、明治以降に佐渡を訪れた文化人を中心に紹介しました。 また、佐渡の人々は、海を渡って訪れた文化人を温かく迎えました。そして、新しい文化や思想をもたらす彼らを慕い、後に島内ゆかりの地に文学碑を建てました。その写真を併せて展示し、交流の深さも紹介しました。
紹介文化人	會津八一 (新潟市出身)、相馬御風 (糸魚川市出身)、青野季吉 (佐渡市出身)、高野素十 (新潟市ゆかり)、中田瑞穂 (新潟市ゆかり)、富川潤一 (長岡市出身) ※ 以下は佐渡を訪れた新潟県外の文化人 尾崎紅葉 (東京都出身)、巖谷一六 (滋賀県出身)、巖谷小波 (東京都出身)、与謝野鉄幹 (京都府出身)、与謝野晶子 (大阪府出身)、江見水蔭 (岡山県出身)、河東碧梧桐 (愛媛県出身)、荻原井泉水 (東京都出身)、高浜虚子 (愛媛県出身)、星野立子 (東京都出身)、釈迦空 (=折口信夫、大阪府出身)、山口誓子 (京都府出身)、津田青楓 (京都府出身)、司馬遼太郎 (大阪府出身)
協 力 団 体 及 び 個 人	展示協力と同じ
展 示	明治 32 年に療養のために約 1 か月佐渡に滞在し、島外に初めて佐渡を紹介した小説家・尾崎紅葉以降の文化人を紹介しました。展示での紹介文化人の選出にあたっては島内に碑が建てられていることを決め手のひとつとしました。同時に、佐渡の人々が渡島文化人を慕った形としての文学碑も紹介しました。作品や資料の展示にあたっては、文化人の生年順を基本とし、資料によっては佐渡への渡島順に構成しました。展示の最後に、展示紹介文化人の碑を中心に、文化人本人の肉筆を原稿とした 30 基を紹介する「佐渡の文学碑」コーナーを設けました。
関 連 事 業	① 山本修巳氏による講演会「文化人が見た佐渡—山本家と文化人たち」(中止) 6 月 4 日に予定しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。中止決定後、講演会に代わるものとして、次の事業を行いました。(詳細は後掲) ・山本修巳氏のインタビュー動画を作成し、展示室で公開しました。また、「文化応援! にいがた結プロジェクト」参加に際してこのインタビューを当館 PR 動画として新潟県に提出しました。 ・講演会で予定されていた内容について山本修巳氏から原稿を執筆してもらい、原稿を掲載するための展覧会簡易図録を作成、販売しました。 ② 担当学芸員による解説会 (中止) 4 月 18 日と 5 月 16 日に予定しましたが、感染拡大防止のため中止しました。

	<p>③ 企画展示 PR 動画配信 山本修巳氏の講演会中止決定後、インタビューを行い、編集した動画を展示室と当館 YouTube チャンネルで配信しました。また、ダイジェスト版を「文化応援！にいがた結プロジェクト」参加に際して新潟県へ提出し、「新潟文化物語 YouTube チャンネル」で公開されました。</p> <p>④ 展覧会簡易図録の作成、販売 講演会で予定されていた内容について山本修巳氏から原稿を執筆してもらい、原稿を掲載するための展覧会簡易図録を作成、販売しました（A4 判中綴じ、全 44 ページ、オールカラー、300 部作成、販売価格は税込 500 円）。</p>
広 報	<p>① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部、ポスター（B2、片面カラー）400 部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>② 新聞広告：新潟日報朝刊および新潟日報おとなプラス（20 回掲載）</p> <p>③ ラジオ CM：BSN ラジオ</p> <p>④ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム</p> <p>⑤ 雑誌等：「M-Walk」、「月刊キャレル」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p>
掲 載 記 事 または 番組	<p>4 月 2 日（木） 新潟日報おとなプラス 特集「山本家が伝える『佐渡の宝』」（執筆：新潟日報社論説編集委員・渡辺洋氏）（記事末尾で展示紹介）</p> <p>4 月 3 日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー</p> <p>4 月 4 日（土） 新潟日報「佐渡・山本家所蔵 文人らと交流示す文墨『文化の記憶館』で企画展」</p> <p>4 月 8 日（水） 新潟日報「『文化人が見た佐渡』の聴講、規模縮小」</p> <p>5 月 22 日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー</p> <p>5 月 29 日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー</p> <p>6 月 9 日（火） 新潟日報 展覧会へようこそ「交流の足跡 脈々と継承」（執筆：伊豆名皓美）</p> <p>6 月 9 日（火） BSN ニュース ゆうなび「司馬遼太郎の手紙など 佐渡に魅了された文化人の作品展」（放映時間 18：51～18：52）</p> <p>6 月 19 日（金） 新潟日報「郷土文化 153 号発刊 円山溟北の足跡に迫る」（記事末尾で展示紹介）</p> <p>7 月 6 日（月） 新潟日報 座標軸「司馬さんと佐渡 丁寧な礼状に人柄にじむ」（執筆：新潟日報社報道部地域担当部長・渡辺洋氏）</p> <p>7 月 10 日（金） 新潟日報「14～19 日、入館無料 文化の記憶館」（7/14-19 無料期間の案内）</p>
入 館 者 数	<p>7 1 2 名（うち有料 2 8 9 名）</p> <p>※ 明治の文豪・尾崎紅葉の佐渡訪問から 120 余年、山本家 12 代当主・山本修巳氏の誕生月であることを記念して、7 月 14 日から 7 月 19 日まで 6 日間を無料期間と設定。</p>
総 括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により山本修巳氏の講演会を中止せざるを得なかったのは残念だった。47 名から申し込みをいただいていた。 ・これまでは春に県内の中学生が巡見で見学に来ることが多かったが、新型コロナの影響によりその機会がなく、来館者数が例年より少なかった。 <p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本家のコレクションがまとまって展示されるのは初めてなので、山本修巳氏や、過去に山本家の資料調査を行った専門家から、良い機会だとコメントを頂いた。 ・来館者から、近代をたどっていく展示の最後に現代の佐渡の碑が見られて充実していたとの声があった。 ・山本修巳氏からの依頼で 3 種類の著書を販売した。販売実績は以下の通り。 『来島の文化人／蔵からのささやき』（税込 2200 円）10 冊、『随筆・佐渡の百話』（税込 3300 円）3 冊、『佐渡郷土文化 153 号』（税込 1320 円）6 冊。『来島の文化人／蔵からのささやき』は展示構成の主要参考文献であったので、山本家所蔵資料についてもっと知りたいという来館者のニーズに応えることができた。 ・山本家コレクションの状態が良いとの声があった。実作品を展示することが、作品の内容だけではなく、所蔵者が大切に受け継いできたことや、所蔵品に対する思いをも伝えることができるということを認識した。 ・山本修巳氏インタビュー動画の作成をきっかけに、当館の公式 YouTube チャンネルを開設することができた。今後活用したい。 ・7 月中の 6 日間、尾崎紅葉の渡島を記念して無料期間とした。展示で紹介する文化人の事績に親しめる機会となったので、機会があれば今後の展示でも検討していきたい。

	<p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化人が佐渡で作った短歌や俳句の内容を通じて、佐渡の歴史や自然を感じ取ってもらえる工夫ができればよかった。 ・簡易図録の編集に時間がかかってしまった。図録を編集するために写真を撮り直したり、横書きの解説パネル原稿を縦書きに組み直したりする作業に時間がかかり、販売開始が会期終了間近の時期になってしまった。今後図録を作成する際は今回の反省を生かしたい。
担 当	伊豆名 皓美

② 新潟県文化祭 2020 参加協賛事業 「江戸のリアリズム 森蘭齋」

会 期	2020 (令和 2) 年 8 月 22 日 (土) ~ 11 月 23 日 (月・祝) 81 日間 ※「佐渡を訪れた文化人」の会期延期にともない、7 月 23 日から 11 月 3 日まで 89 日間の会期を、8 月 23 日から 11 月 23 日まで 81 日間に変更。
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ
後 援	妙高市教育委員会
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
協 力	故 吉沢久子氏
展 示 協 力	新潟県立図書館、森蘭齋顕彰会
趣 旨	<p>現在の妙高市新井に生まれた森蘭齋 (1740~1801 年) は「南蘋派 (なんぴんは)」の画家として江戸中期に活躍しました。越後で五十嵐浚明 (1700~81 年) に画を学んでいたころ、南蘋派の熊代熊斐 (くましろ・ゆうひ、1712~73 年) の画を見て、南蘋派に入門を決意。1763 年頃から長崎でその技法を学びました。</p> <p>「南蘋派」は、中国・清時代の宮廷画家 沈南蘋 (しん・なんぴん、1682~1760 年?) が長崎滞在時に残した技法で、写実的で鮮やかな彩色の花鳥画を特徴とします。その技法は同時代の円山応挙や伊藤若冲に影響を与えたといわれますが、現在では知る人ぞ知る流派です。そのため、博物館などで所蔵されている森蘭齋作品は僅かです。</p> <p>本展示では生誕地に残る作品や資料を中心に江戸のリアリズム絵師・森蘭齋を紹介しました。</p>
紹介文化人	森蘭齋 (妙高市)、五十嵐浚明 (新潟市)、片山北海 (新潟市及び弥彦村)
協 力 団 体 及 び 個 人	展示協力と同じ、
展 示	江戸絵画史に名を遺す妙高出身の絵師・森蘭齋の作品で、地元の顕彰会の調査活動で発掘された作品と、新潟県立図書館が所蔵する森蘭齋の絵手本『蘭齋画譜』をあわせて展示して、森蘭齋とその作品を紹介しました。
関 連 事 業	<p>① 横山秀樹氏による講演会「森蘭齋と南蘋派」 参加者数：39 名 開催日：10 月 6 日 (火) 会場：新潟日報メディアシップ 6 階 ナレッジルーム 講師：横山秀樹氏 (前新潟市新津美術館館長) ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、会場定員は 45 名 (スタッフ含む)。</p> <p>② 担当学芸員による解説会 全 3 回 (3 回とも同じ内容) 参加者総数：10 名 開催日：9 月 19 日 (土)、10 月 17 日 (土)、11 月 14 日 (土) 会場：当館 担当：石垣雅美</p> <p>③ 企画展示アーカイブ動画配信 「新潟県文化祭 2020」参加協賛事業として、アーカイブ動画を作成、新潟県へ提出し、「YouTube 新潟ステージチャンネル」で配信されました。</p>
広 報	<p>① チラシ (A4、両面カラー、割引券付) 10,000 部、ポスター (B2、片面カラー) 400 部 (県内顕彰施設や図書館などに発送)</p> <p>② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス (15 回掲載)</p> <p>③ テレビ CM：NST 新潟総合テレビ</p> <p>④ ラジオ CM：BSN ラジオ</p> <p>⑤ ウェブサイト：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語</p> <p>⑥ 雑誌等：「月刊キャレル」(イベント情報)</p>
掲 載 記 事	8 月 28 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会

または番組	8月31日(月) 新潟日報「森蘭斎の秀作味わって 新潟で屏風など展示」(取材記事) 9月4日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 9月18日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 9月25日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 10月2日(金) 新潟日報「森蘭斎に迫る 6日メディアシップ企画展に合わせ講演」(10/6 イベント案内) 10月14日(水) 新潟日報「妙高出身・森蘭斎の功績 中央区 新津美術館前館長が解説」(10/6 イベント取材記事) 11月11日(水) 新潟日報おとなプラス 読者のひろば「同郷の絵師蘭斎 功績後世に」
入館者数	996名(うち有料660名)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	○ 評価点 ・妙高市教育委員会および森蘭斎顕彰会の方にご協力いただき、地元に残る森蘭斎の作品をお借りして展示することができた。 ・2020年春の臨時休館で当該展示の会期が遅れたことで、森蘭斎展修了後に開催予定だった新潟市歴史博物館「生誕320年記念特別展 五十嵐俊明 越後絵画のあけぼの」(会期:2020年11月14日~12月27日)と、10日間ほど会期が重なることとなった。江戸絵画の企画展が同時期に近隣館で開催することが珍しく、全国から研究者や学芸員などが当館と新潟市歴史博物館を訪れるケースが見られた。(注:この期間はGo To Travel実施期間) ・関連イベントの横山秀樹氏講演会では、講師による近世越後の画家・五十嵐俊明と弟子の森蘭斎についての説明もあり、アンケートでは好意的な意見が主であった。 ■ 検討課題 ・新潟市歴史博物館「五十嵐俊明」展との連携のお話しをいただきながら、会期がずれていたため、広報連携だけとなった。近隣館との連携の在り方を検討し、次に生かしたい。 ・コロナ禍で県外から講師を招いて講演会を開催するか否かの判断がギリギリになってしまった。この経験は次年度以降に生かしたい。
担当	石垣 雅美

③ 新潟県文化祭2020 参加協賛事業 「没後70年記念 相馬御風のうたのこころ」

会期	2020(令和2)年12月12日(土)~2021(令和3)年3月21日(日) 79日間 ※「佐渡を訪れた文化人」の会期延期にともない、11月21日から3年2月28日まで80日間の会期を、12月12日から3年3月21日まで80日間に変更。※ただし、2021年1月7日から1月11日までの大雪により、1月7日は16時閉館、1月9日を臨時休館とした。
主催	にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
協力	故 吉沢久子氏
展示協力	糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》
趣旨	糸魚川町に生まれた相馬御風(1883~1950年)は、2020年に没後70年を迎えました。早稲田大学校歌「都の西北」や「カチューシャの唄」の作詞で知られ、詩人や文芸評論家として活躍した御風が文学の道に入ったのは11歳の時でした。地元の俳人・歌人の手ほどきを受けて俳句や短歌を詠み始めた御風は、高田中学校(現高田高校)時代の国語教師の下で本格的に短歌を学びました。 中学卒業後に与謝野鉄幹主宰の「新詩社」に入会。東京専門学校高等予科(現早稲田大学)在学中、共に新詩社を脱退した前田林外や岩野泡鳴らと「東京純文社」を興し、雑誌「白百合」を創刊しました。大学卒業後は恩師・島村抱月によって再刊された「早稲田文学」の編集に携わり、短歌よりも自然主義評論や詩、小説の創作活動に意欲的な10年間を過ごしました。 1916(大正5)年、33歳で東京での文壇生活を捨てて郷里糸魚川に退住、良寛研究に着手します。町の有志によって御風を指導者とする短歌結社「木蔭会」が組織されると、再び旺盛なる意欲をもって歌作につとめました。御風は1926(大正15)年に発刊した『御風歌集』のはしがきで「歌は私の最も純真な表現」と述べています。御風にとって短歌とは真実の自己表現だったのです。御風の短歌には、人間愛や郷土愛、良寛への敬慕といった慈しみの心が表れています。本

	展では、御風の文学の原点ともいえる短歌の世界について紹介しました。
紹介文化人	相馬御風（糸魚川市出身）、岡田紅陽（十日町市出身）、小川未明（上越市出身）、堀口大學（長岡市ゆかり）、宮柊二（魚沼市出身）
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展 示	<p>相馬御風の歌人としての活躍は1916（大正5）年3月の郷里糸魚川への退住を境に前期と後期に分けることができます。御風の「うたのこころ」が来館者に伝わるよう、以下のように構成しました。</p> <p>序章「作歌に対する御風の想い」：御風が作歌への決意を表現した歌「この道は」を展示。</p> <p>第1章「歌人御風－前期」：本格的に短歌の勉強を始めた旧制高田中学校時代から早稲田大学卒業時までには詠んだ短歌を書籍や短冊などで展示。</p> <p>第2章「歌人御風－後期」：1916年の糸魚川退住以降に詠んだ歌や、郷里で研究し始めた良寛ゆかりの歌などを愛用の文房具や歌集とともに紹介。</p> <p>第3章「書で御風の歌を味わう」：御風揮毫の軸を展示。</p> <p>関連展示として、以下のコーナーを設けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「受章者コーナー」：旧制高田中学、早稲田大学で同窓生だった児童文学者の小川未明（上越市出身）と、御風と交流のあった詩人・堀口大學（長岡市ゆかり）の直筆色紙などを展示。 ・「文学コーナー」：御風が主宰する「木蔭会」で指導を受けていた歌人・宮柊二（魚沼市出身）が、晩年の御風に認めた三通の手紙を展示。 ・関連施設紹介：御風の足跡をたどることのできる糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》と新潟県史跡相馬御風宅の案内パネルとパンフレットを設置。 ・DVDの上映、関連図書の紹介 <p>相馬御風の生涯について理解を深められるよう、DVD「糸魚川の文人 相馬御風のあゆみ」（企画・製作：糸魚川市、糸魚川市教育委員会）を上映。本展の企画構成に際しての主要参考文献を中心に、関連図書の閲覧コーナーを設置。</p>
関連事業	<p>① 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも同じ内容） 参加者総数：14名 開催日：12月19日（土）、1月16日（土）、2月20日（土） 会場：当館 担当：伊豆名皓美</p> <p>② 企画展示 PR 動画配信 「新潟県文化祭2020」参加協賛事業として、アーカイブ動画を作成、新潟県へ提出し、「YouTube新潟ステージチャンネル」で配信されました。</p>
広 報	<p>① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス（回掲載）</p> <p>③ ホームページ：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム、Kita-Colle ART（ミュージアムポータルサイト）</p> <p>④ 雑誌等：「月刊キャレル」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p>
掲載記事または番組	<p>12月4日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p> <p>12月13日（日） NST ニュース「糸魚川市出身の文人・相馬御風 歌の世界を感じられる企画展」</p> <p>12月15日（火） 新潟日報「歌ににじむ愛郷心 没後70年 相馬御風の企画展」（取材記事）</p> <p>2月19日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p> <p>3月5日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p>
入館者数	422人（うち有料277人）
総 括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	<p>・相馬御風の作詞に関する業績については、当館で2015（平成27）年度に企画展示「にいがたの歌と音楽」で紹介した。また、良寛研究の業績については、当館で2018（平成30）年度に企画展示「良寛再発見」で紹介した。さらに、御風の校歌作詞については、2018（平成30）年度に糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》で企画展示「御風の作った校歌と市内の学校のお宝展」が開催された。そのため本展では、これまでとは違った角度から御風を顕彰するために、展示に十分な資料や材料のある、御風の短歌に焦点を当てて開催した。</p> <p>・入場者数は、令和2年度度予算案作成時の目標人数である900人を大きく下回ってしまった。12月中旬頃からの新型コロナ第3波の襲来と、1月の豪雪も要因と思われる。</p> <p>○ 評価点</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関では生誕の周年展をやることはあるが没後の周年展の機会が少ないということなので、本企画に対して糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》からは大変好意的だった。また、御風の短歌に焦点を当てることについては過去に例がなかったため、御風研究者や顕彰活動家から企画内容に賛同していただけた。 ・前述のとおり入館者数は落ち込んでしまったが、親族が御風と交流のあった人や御風の書の愛好者など本企画展を目的に、新潟市内だけでなく糸魚川からの来館者も何人か見受けられた。また、本企画展見学を目的（と思われる）にして中越から一人で来館した高校生もおり、普段の層とは違った来館者も見られた。 ・展示資料の短冊、色紙や歌集が作られた経緯について理解を深められるよう、第1章（歌人御風－前期）と第2章（歌人御風－後期）で前半後半に分けて御風の略年譜をパネル展示したところ、「生涯をたどりながら資料を見ることができて良い」との声があった。 ・「キャプションや釈文が大きくて見やすかった」との声があった。 ・来館者の展示内容に対する関心の維持向上のために、金子善八郎氏の著書『新潟県人物小伝 相馬御風』（税込 1,100 円）を発行元の新潟日報事業社より仕入れて窓口で販売した。販売実績は4冊。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本展では、短歌をとおして御風への理解を深めるとともに、短歌という文学の魅力を感じ取ってもらうことをねらいとした。そのために、御風の短歌に表れている、郷土愛や良寛への敬慕、人間愛などがもっと視覚的に伝わるような造作の工夫ができればよかった。
担当	伊豆名 皓美

2. ネットワーク協議会事業

事業名	内容
(1) PR 動画作成 呼びかけ	<p>[動画作成] 新潟県文化祭 2020 の YouTube チャンネル「新潟ステージチャンネル」で配信する動画募集に合わせて、当館を知らない人を対象として、「文化の丁字路・新潟」が生み出した「人の文化」を広く伝えるために、当館の紹介動画を制作しました。</p> <p>[顕彰館・団体への動画制作呼びかけ] 2019 年度に開催された「第 34 回国民文化祭・にいがた 2019」のレガシー活用として、新潟県の「人の文化」をより広く知ってもらうため、各館・団体が自らの活動を PR する動画を作成し、「新潟県文化祭 2020 新潟ステージチャンネル」(YouTube にて配信)などに参加することが効果的と考えました。そこで当館で制作した PR 動画(約 10 分)のマニュアルを作成し、各館自らの PR 動画作成の呼びかけ文書とともに、2021 年 3 月にネットワーク協議会の参加館・参加団体へ郵送しました。</p>
(2) 出張展示支援	<p>①「江戸のリアリズム 森蘭齋」 会期：2020（令和 2）年 8 月 23 日～ 11 月 23 日 後援：妙高市教育委員会 広報連携：新潟市歴史博物館</p> <p>②「没後 70 年記念 相馬御風のうたのこころ」 会期：令和 2 年 12 月 12 日～令和 3 年 3 月 21 日 展示協力：糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》</p> <p>※①、②とも展示場所は、にいがた文化の記憶館展示室</p>
(3) 館報の発行	<p>誌面名：「にいがた文化」第 6 号 発行：2021（令和 3）年 3 月 仕様：20 ページ、A4、カラー印刷 内容：表紙 森蘭齋《龍虎之図》《三国志武人之図》屏風（妙高市指定文化財）、 p15 にいがた文化ネットワーク協議会参加館の取り組み紹介 寄稿「三条市諸橋博士漢学の里（諸橋轍次記念館）」 執筆 諸橋轍次記念館 嘉代 隆一 館長 P16～20 イベントスケジュール（ネットワーク協議会参加館） 発行部数：6,000 部（無料頒布） 頒布先：県内文化施設、図書館、学校等</p>

3. 教育普及事業

(1) 担当学芸員による解説会（参加者総数：24名） ※2019（平成31・令和元）年度実績：121名

事業名	開催日	内容	参加人数
「佐渡を訪れた文化人」	4/18(土)	担当：伊豆名 皓美	感染拡大防止のため中止
「佐渡を訪れた文化人」	5/16(土)	担当：伊豆名 皓美	感染拡大防止のため中止
「江戸のリアリズム 森蘭齋」	8/15(土)	担当：石垣 雅美	会期変更のため取り止め
「江戸のリアリズム 森蘭齋」	9/19(土)	担当：石垣 雅美	6名
「江戸のリアリズム 森蘭齋」	10/17(土)	担当：石垣 雅美	2名
「江戸のリアリズム 森蘭齋」	11/14(土)	担当：石垣 雅美	2名
「相馬御風のうたのころ」	12/19(土)	担当：伊豆名 皓美	7名
「相馬御風のうたのころ」	1/16(土)	担当：伊豆名 皓美	2名
「相馬御風のうたのころ」	2/20(土)	担当：伊豆名 皓美	5名

(2) 企画展示関連講演会（参加者総数：39名） ※2019（平成31・令和元）年度実績：430名

事業名	開催日	内容	参加者数
「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」関連イベント 山本修巳氏による講演会「文化人が見た佐渡—山本家と文化人たち—」	6/4(木)	講師：山本修巳氏（山本家第12代当主） 会場：メディアシップ6階 ナレッジルーム	感染拡大防止のため中止
「吉沢久子・古谷綱武展」関連イベント 阿部絢子氏による講演会「吉沢久子さんに学んだ シニアの老後を楽しむ処方箋」 ※2019年度開催予定を延期	7/28(火)	講師：阿部絢子氏（生活研究者、消費生活アドバイザー、薬剤師） 会場：メディアシップ2階 日報ホール	感染拡大防止のため中止
「森蘭齋」関連イベント 横山秀樹氏による「森蘭齋と南蘋派」	10/6(火)	講師：横山秀樹氏（前新潟市新津美術館館長） 会場：メディアシップ6階 ナレッジルーム	39名

(3) 学校との連携事業（参加者総数：0名） ※2019（平成31・令和元）年度は16名

※2020年度に来館した小中学校数及び生徒数：5校、52名（前年度：27校、660名）

(4) 館外での活動（執筆、講座、講演会など）

■ 執筆活動

タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「センター月報」連載 「にいがた文化の記憶」（転載）	5月、6月、 9月、11月、 1月、3月	神林館長の著書『にいがた文化の記憶』から選んだ記事を隔月で掲載。	神林 館長
フリーペーパー『喜怒哀楽』連載寄稿 「にいがた文化の記憶館便り」	4月、6月、 8月、10月、 12月、2月	企画展示の紹介に合わせ、当該展示で採り上げた新潟ゆかりの文化人について解説	伊豆名 皓美
新潟日報「展覧会へようこそ」 「交流の足跡 脈々と継承」	6/9(火)	企画展示「佐渡を訪れた文化人—山本家コレクションより」を紹介	伊豆名 皓美

■ 講座、講演会など（参加者総数：218名） ※2019（平成31・令和元）年度は50名

事業名	開催日	内容	参加者数
新潟青陵大学 前期講義「地域文化論」 全15回（遠隔授業）	5/13(水)～ 8/26(水)	担当：武藤事務局長（11回）、石垣雅美（2回）、會津八一記念館・喜嶋奈津代学芸員（1回）、會津八一記念館・湯浅健次郎学芸員（1回）	137名
新潟商工会議所主催 古町漫画映画オデオン「長靴をはいた猫」上映会での作品解説	10/24(土) 10/25(日)	担当：石垣 雅美 会場：シアターNEXT1 (i-MEDIA 国際映像メディア専門学校)	のべ81名

4. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

5. 収集・保存、資料貸出

■ 資料の寄贈受入

資料名	関連文化人名	件数
「書（色紙貼付）」	石黒 忠恵（小千谷市ゆかり）	1枚
掛軸	羽下 修三（五泉市出身）	1幅
原稿	小松 重男（新潟市出身）	34枚

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
朝日新聞	7/1(水)	多事奏論「権力と新聞 不都合な実相こそ恐れずに」	駒野 剛氏（朝日新聞編集委員）
新潟日報	10/25(日)	もっとあなたに特別報道班「新潟中央区出身・作家故小松重男さん作品『のどぐろ』出版された？」	黒島 亮氏（新潟日報記者）
新潟日報	11/3(火)	広告「2020年度 維持会員・パスポート会員の皆様 ご支援感謝致します」	—
新潟日報	2/5(金)	もっとあなたに特別報道班「『のどぐろ』直筆原稿、故郷新潟で保存へ」	黒島 亮氏（新潟日報記者）

3. 事業別評価

事業名	評価点（○）	改善点（▲）・今後の課題（■）
展 示 常設展示 （関連図）	○ 新型コロナウイルス感染が拡大し始めたころから、タッチパネルの使用中止や清掃や換気の強化、感染防止マニュアルの作成など対策をとることができた。 ○ 令和2年度に文化功労者に認定された新潟県人を紹介する受賞者パネルを設置した。 ○ 一部のコーナーでは企画展示に関連した展示を行った。	■ 臨時休館にともない会期を変更したが、事務仕事が煩雑になった。新型コロナウイルス感染下ではあるが、腰を据えて事業計画を立てていきたい。

	企画展示	○ 博物館や美術館等で展示される機会のない作品や資料を展示することが出来た。	■ 新型コロナウイルス感染拡大により中止した関連イベントが複数あった。 ▲ イベントを中止した代わりに、動画配信や冊子作成などで観覧者のニーズに応えた。
ネットワーク協議会	協議会	○ 第5回協議会の開催を中止した代わりに、新しい形での連携を提示できた。	■ 新型コロナウイルス感染拡大により協議会開催を中止した。感染拡大の長期化に備えて、オンライン開催など検討したい。
	顕彰施設及び団体との連携	○ 各施設や団体よりパンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○ 企画展示を通じて、顕彰施設や団体と連携した。	■ 以前からの課題だが、県内顕彰施設の来館者増を図るためのツール（印刷物など）作成を検討したい。
	館報	○ 関係各者の協力により、第6号が例年通り刊行できた。	
教育普及	イベント、講演・解説	○ 令和元年度に中止となった外部での解説会が開催され、新潟県出身の文化人を紹介することができた。	■ 解説会で参加者との距離を取るなど来館者に負担がかからないよう感染対策に取り組んでいる。
	副読本・偉人かるた	○ 文化功労者が増えたことから、副読本パンフレットを改定した。 ○ 「にいがた偉人かるた」の広告掲載後に新規注文が増えた。	■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。
調査・研究		○ 常設展示や企画展示にあわせて、文化人の調査ができた。 ○ 外部からの照会に対応することで、文化人の発掘ができた。	■ 文化人データベース構築を進めている。
人物選定委員会		○ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。	
広報		○ 危機管理等において、ホームページやFacebookなどでの迅速な発信ができた。 ○ 文化人を誕生日に紹介するシリーズによりFacebookでの発信回数が増えた。	■ 効果的な広報計画を進めたい。

【参考資料】 ◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	<p>〔4月〕山本修巳氏ご夫妻、佐渡博物館・本間係長、新津美術館・松沢寿重館長、新潟日報社論説編集委員室・高内小百合論説編集委員、北方文化博物館・伊里浩学芸員、長谷川義明代表理事、新潟日報社新人研修8名、本井晴信氏、野中浩俊評議員、（公財）新潟県文化振興財団・齋藤靖則業務執行理事、橋本博文評議員</p> <p>〔5月〕新潟大学教育学部・角田勝久准教授、近藤悠子氏、島田讓評議員、渡辺英美子評議員</p> <p>〔6月〕北嶋藤郷敬和学園大学名誉教授、BSN新潟放送事業部・井上美保子氏、BSN新潟放送報道部・三浦大地氏他1名、長谷川義明代表理事、日本教育公務員弘済会新潟支部・本間則昭専任幹事、野中浩俊評議員、新潟大学教育学部・角田勝久准教授、北方文化博物館・神田勝郎館長、北都・佐藤氏、新潟日報社報道部・渡辺洋地域担当部長、新潟日報社報道部・蒔谷祥子佐渡支局長、BSN新潟放送・竹石松次顧問、駒形十吉記念美術館・古塩充館長</p> <p>〔7月〕新潟日報社報道部・石塚恵子デスク、山本修巳氏ご親戚、長谷川義明代表理事、イシカワ・関本道章氏、横山秀樹氏</p> <p>〔8月〕新潟日報おとなプラスライター・野崎真喜氏、新潟日報社報道部・島本記者、新潟日報社報道部・吉村カメラマン</p> <p>〔9月〕新潟日報社・高橋正秀専務、新潟日報社論説編集委員室・上杉建夫次長、南加乃子氏、會津八一記念館・野中浩俊館長、BSN新潟放送・竹石松次顧問他3名、新潟大学教育学部・角田勝久准教授</p> <p>〔10月〕村山稔理事、駒形十吉記念美術館・古塩充館長、妙高市・入村明市長、妙高市役所・松岡氏、妙高市役所・小山氏、新潟市・中原八一市長他3名、新潟日報上越支社・佐藤俊次広告担当部長、南加乃子氏、ヨシムラタクヤ氏、（公財）新潟県文化志向財団・齋藤靖則業務執行理事、生活評論家・阿部絢子氏、新潟市歴史博物館・伊東祐之館長、島津印刷・南山課長他1名</p> <p>〔11月〕安吾風の館・岩田多佳子学芸員、ハイングラフィック・山岸氏、常磐津節・鈴木英一太夫、新潟日報社論説編集委員室・上杉建夫次長、大光銀行・古出哲彦代表取締役会長、栃木県立美術館・橋本慎司学芸課長、東京大学・板倉聖哲教授、尚美学園大学・伊藤紫織教授、東京文化財研究所・安永拓世研究員、早稲田大学・成澤勝嗣教授、足立区立郷土博物館・加藤ゆずか専門員、徳川記念財団学芸部・柿澤香穂学芸員、横山秀樹氏</p> <p>〔12月〕新潟日報社報道部・川名洋平記者他1名、NSTカメラマン、BSN新潟放送・竹石松次顧問、長谷川義明代表理事、野中浩俊評議員、會津八一記念館・高岡信也事務長他1名</p> <p>〔1月〕新潟大学教育学部・角田勝久准教授、BSN新潟放送・竹石松次顧問、（公財）新潟県文化振興財団・齋藤靖則業務執行理事、新潟日報社論説編集委員室・上杉建夫次長、高橋道映代表理事</p> <p>〔2月〕新潟日報社総務部・西垣勝資産管理運営企画担当部長、セッサ・嘉村真由美取締役他3名、新潟県文化振興課・小林保夫課長、新潟日報おとなプラスライター・和田ご夫妻、長谷川義明代表理事</p> <p>〔3月〕水島あやめ研究家・因幡純雄氏、新潟県教育庁文化行政課・大矢氏他2名、長谷川義明代表理事、新潟日報社・東寛氏、新潟日報社論説編集委員室・上杉建夫次長、横山秀樹氏他1名</p>
ご遺族	0名
団体観覧（一般）	計0団体（0名）
団体観覧（学校） ※引率者を含む ※太字は前年度以前から継続して見学している学校	<p>〔6月〕新潟青陵大学「地域文化論」受講生14名</p> <p>〔7月〕新潟青陵大学「地域文化論」受講生66名</p> <p>〔8月〕新潟青陵大学「地域文化論」受講生13名</p> <p>〔9月〕新潟市立山の下中学校2年生3名・引率2名</p> <p>〔10月〕新潟市立南浜中学校2年生21名・引率1名、群馬県みなかみ町立月夜野中学校2年生5名</p> <p>〔11月〕新潟大学附属新潟小学校4年生7名・引率2名</p> <p>〔12月〕新潟大学学生（會津八一記念館実習生）1名</p> <p>〔3月〕十日町市立中条中学校2年生11名</p> <p style="text-align: right;">計7校・団体（146名）</p> <p style="text-align: right;">※2019（平成31・令和元）年度＝計30校・団体（724名）</p>

4. 財団運営業務

1. 会議の開催状況

(1) 評議員会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (書面)	令和2年5月29日 書面決議 評議員全員の書面同意	[議事] 1. 2019(令和元)年度 事業報告案の件 2. 2019(令和元)年度 決算案の件(監査報告) 3. 人事案件 ① 評議員辞任に伴う新評議員選任案 ② 理事候補の選任案 4. 定款第17条および第35条をそれぞれ変更する案
第2回 (定時)	令和3年3月23日 新潟日報メディアプラス3階	[議事] 1. 補充理事候補の選定 2. 補充評議員候補の選定 3. 2021(令和3)年度 事業計画案 4. 2021(令和3)年度 予算案 [報告] 1. 2021(令和3)年度第1回理事会、評議員会の開催時期について

(2) 理事会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (書面)	令和2年5月7日 書面決議 全員(理事、監事)の 書面同意	[議事] 1. 2019(令和元)年度 事業報告案の件 2. 2019(令和元)年度 決算案の件(監査報告) 3. 人事案件 ① 評議員辞任に伴う新評議員選任案 ② 理事候補の選任案 4. 定款第17条および第35条をそれぞれ変更する案
第2回 (定時)	令和3年3月23日 新潟日報メディアプラス3階	[議事] 1. 補充理事候補の選定 2. 補充評議員候補の選定 3. 2021(令和3)年度 事業計画案 4. 2021(令和3)年度 予算案 [報告] 1. 2021(令和3)年度第1回理事会、評議員会の開催時期について

2. 組織

(1) 役員等の人数(令和3年3月31日現在)

評議員	14名	令和3年3月23日から現体制
理事	10名	理事内訳(代表理事2名、館長・理事1名、業務執行理事1名、理事6名) 令和3年3月23日から理事を1名増員
監事	1名	

(2) 職員数(令和3年3月31日現在)

館長	事務局長	職員	準職員	計
1名	1名	2名	1名	5名

※ 学芸顧問2名

(3) 組織図 (令和3年3月31日現在)

